

患者さんへの説明文書

年 月 日

この文書は、あなたの担当医師が、下記に示す臨床研究の実施に先立ち、あなた自身に本試験の内容を説明する資料です。

以下の内容をよくお読みになり、ご理解頂き、研究に参加することに同意される方は、この文書の最後に署名、捺印し日付を記入して担当医師にお渡し下さい。

1. 研究課題名

「RET 融合遺伝子等の低頻度の遺伝子変化陽性肺癌の
臨床病理学的、分子生物学的特徴を明らかにするための前向き観察研究 ver1.8」

代表研究機関

国立がん研究センター東病院 呼吸器内科
国立がん研究センター 先端医療開発センター トランスレーショナルリサーチ分野
国立がん研究センター研究所 ゲノム生物学研究分野

研究代表者

国立がん研究センター東病院 呼吸器内科 後藤功一

研究事務局

国立がん研究センター東病院 呼吸器内科 後藤功一、葉清隆
国立がん研究センター 先端医療開発センター ゲノムトランスレーショナルリサーチ
分野 松本慎吾

産業医科大学は、この研究に協力機関として参加しています。

2. 研究実施期間

この臨床研究は、各施設の倫理委員会における研究許可日から 2014 年 7 月にかけて約 4 年 8 カ月間行います。その間に、日本全国の病院から 6500 名以上の患者さんに参加して頂く予定です。

3. 研究の目的

これまでの検査の結果から、あなたの病気は、①肺癌の疑いがあること、②肺癌であること、③肺癌の再発が疑われることのいずれかであることが分かっています。

初めて肺癌が疑われたのであれば、今後、気管支鏡（気管支の中にカメラを入れて、肺や気管支の組織や細胞を取る検査）、針生検（からだの表面に局所麻酔をして、細い針を刺して組織や細胞を取る検査）、あるいは手術などを行い、見つかった病変が本当に肺癌なのかどうか診断していく必要があります。既に肺癌と分かっているのであれば、今後予定している治療の効果を予測するために、上記のような組織や細胞をとる検査を行う場合があります。また、再発の可能性が考えられたのであれば、本当に以前診断された肺癌の再発なのかどうか、また、今後行う予定の治療の効果を予測するために、再発した部分の組織や細胞を取って確認していく場合があります。

これらの検査で肺癌や肺癌の再発であることが分かった場合は、一般的な治療方法と

して、手術、抗がん剤、放射線療法などがあり、あなたの病気の進み具合と、全身状態に応じて、これらの治療のうち、ひとつあるいはいくつかを組み合わせることで今後の治療を行っていく予定です。

がん細胞の遺伝子異常について

正常な細胞が、がん細胞になるときは遺伝子にいろいろな異常が起こることが知られています。このためがん細胞は、正常細胞が持っている遺伝子とは異なる特有の遺伝子を持っています。これらの異常のため細胞の設計図が書き換えられ、がん細胞は正常の細胞とは異なる性質を示すと考えられています。

最近、がん細胞の遺伝子を調べることで、それぞれの患者さんに適切な治療法が選択できるようになってきました。がん細胞の特定の遺伝子に異常がある人とない人では、一部の治療薬の効果が大きく異なることが明らかにされています。このため、複数の重要な遺伝子を同時に調べ、適切ながんの治療を選択するために役立てようとする試みが世界中で行われています。

RET 融合遺伝子について

2012年に肺がんの新たな原因遺伝子として、RET 融合遺伝子が発見されました。この遺伝子は、ヒトの細胞における10番目の染色体の一部が切れて逆向きにはまり込むことによって出来る遺伝子です。このような遺伝子異常が発生する原因は明らかになっていませんが、遺伝子異常が起きた細胞は増殖が盛んになり、がん細胞に変化していきます。これまでの研究では、肺がん全体の中に、このRET 融合遺伝子が原因で発生した肺がんが1-2%存在すると報告されており、まれな種類の肺がんといえます。また、RET 融合遺伝子陽性の肺がんは、現在までに確認されているその他の肺がんの原因遺伝子であるEGFR 遺伝子変異、ALK 融合遺伝子、ROS1 融合遺伝子などを認めないことも分かっています。更に、基礎研究においては、このRET 融合遺伝子が原因で発生した肺がんには、この遺伝子異常に伴うがん細胞の活動を抑える薬剤が有効であることが報告されています。

RET 融合遺伝子は発見されてまだ間もなく、また、この融合遺伝子を持つ肺がんがまれであることから、RET 融合遺伝子陽性の肺がんに関しては、これまで少数の患者さんについての報告しかありません。今後は、この肺がんの性別、年齢、喫煙歴など臨床背景に関する特徴や、様々な治療法による効果、予後について検討するとともに、この肺がんの組織や細胞を顕微鏡で観察し、どのような特徴を持つ肺がんなのか、また、遺伝子解析の結果に基づき、その他の様々な遺伝子とどのような関係にあるのかなど、その詳しい特徴を明らかにして、原因、治療法を開発していく必要があります。

この臨床研究は、日本全国の病院が参加する肺がんの遺伝子研究組織であるLC-SCRUM-Japan(エルシー・スクラム・ジャパン)で行われる研究です。LC-SCRUM-Japanでは、全国の肺がん患者さんから肺癌の組織、細胞を集めて、その原因遺伝子を調べて、様々な遺伝子異常を認める肺癌を診断する研究を行っています。遺伝子異常の発生頻度が低い肺がんを見つけるためには、少数の病院で遺伝子検査を行っていても、なかなか発見は困難であるため、LC-SCRUM-Japanのような全国規模で遺伝子を調べる組織が必要になります。

この研究では、非常にまれなRET 融合遺伝子陽性の肺がんを全国から特定し、その特徴を明らかにすることを目的としています。更に、この研究ではRET 融合遺伝子以外の様々な遺伝子異常についても同時に調べるため、その他の多種類の遺伝子異常を有する肺がんの特定をすることも可能になります。RET 融合遺伝子の肺がんと同じように、それ以外の多種類の遺伝子異常を有する肺がんを特定し、その特徴を明らかにすることも、この研究の目的になります。

ます。また、この研究で得られた遺伝子検査の結果や特定の遺伝子異常を有する肺がんの特徴などの情報を、この研究に参加する医療施設や治療薬の開発を行っている製薬企業に広く開示することで、肺がん治療薬の臨床試験を積極的にサポートし、今後の治療開発を推進していくこともこの研究の目的としています。

もし、あなたの肺がんに関係する遺伝子異常があることがわかり、その遺伝子異常を対象とした治療薬の臨床試験が進行中である場合には、試験へ登録して治療を受けることについて担当医と相談してください。ただし、臨床試験に登録するためには様々な基準があるため、遺伝子が陽性であっても登録できないことがあることはご理解ください。

4. 具体的な研究の方法

この研究は、肺がんの遺伝子検査を行って何らかの遺伝子異常があった場合に、その遺伝子異常に基づく治療の臨床試験に参加希望がある方を対象として行います。ただし、この研究はその臨床試験への参加を強制するものではなく、例え遺伝子検査前に臨床試験への参加を希望したとしても、遺伝子検査の結果によって、あるいはあなたの治療経過などによって、臨床試験への参加を取りやめることも可能です。

あなたがこの臨床研究に参加された場合には、肺がんの病変部分の組織、細胞を取る検査を行う際に、研究のために必要な量を含めて、通常よりも少し余分に取らせて頂くことがあります。具体的には、気管支鏡や針生検、胸腔穿刺で検体を取る場合に、同時に数回余分に検体を取る可能性があります。過去の検査で取って保存している検体を、この研究に利用する場合には、新たに検査を受ける必要はありません。提出されたあなたの検体は、専門の会社で遺伝子解析が行われ、RET 融合遺伝子を含む複数の遺伝子異常の有無が調べられます。なお、病気の進行度に応じて、あなたが今後、手術による治療を受ける可能性がある場合には、まず ALK 融合遺伝子という遺伝子の検査を行い、ALK 融合遺伝子が陰性のときに複数の遺伝子検査を行うこととなります。2017年4月からは、米国のサーモフィッシュャー社が開発したオンコマイン・コンプリヘンシブアッセイ (OCA) を用いて、約 150 種類の遺伝子の検査を行います。更に、この遺伝子検査で RET 融合遺伝子、あるいは ROS1 融合遺伝子が検出されたときには、別の検査方法 (RT-PCR 検査や FISH 検査など) でその結果を確認します。ただし、遺伝子検査のために十分な量の検体がなかった場合には、これらの検査のうちの一部、あるいは全てができない場合があります。また、これらの遺伝子検査については、対象となる遺伝子の種類 (数種類～数百種類まで様々です)、実施する患者数、検査期間が、研究の進行に伴い随時変更になるため、全ての患者さんに常に行われるわけではありません。追加の遺伝子検査の実施状況に関する情報は国立がん研究センターの先端医療開発センターのホームページ (http://epoc.ncc.go.jp/clinicaltrial/scrum_index.php) に随時掲載されますので、内容をご確認ください。

遺伝子解析の結果は 3～5 週間後に担当医は報告されます。なお、結果が報告されるのは、遺伝子解析の実施状況にもよりますが、これまでに肺がんで治療薬の効果との関係が報告されている 20 種類の遺伝子の異常 (RET 融合遺伝子、ALK 融合遺伝子・遺伝子変異、ROS1 融合遺伝子、FGFR1-4 の遺伝子変異・遺伝子増幅・融合遺伝子、MET 遺伝子変異・遺伝子増幅、AKT1 遺伝子変異、BRAF 遺伝子変異、ERBB2 遺伝子増幅・遺伝子変異、HRAS 遺伝子変異、KRAS 遺伝子変異、NRAS 遺伝子変異、PIK3CA 遺伝子変異、EGFR 遺伝子変異、NTRK1-3 融合遺伝子、NRG1 融合遺伝子) のみとなります。更に、他の全ての遺伝子についても結果を開示することが可能ですので、結果を知りたい場合には、担当医と相談して下さい。

あなたの肺がんで何らかの遺伝子異常が見つかり、その遺伝子異常を対象とした治療の臨

床試験が進行中の場合には、その試験への登録について担当医と相談してください。

遺伝カウンセリングについて

今回、解析を行う遺伝子は、肺がんの原因となる遺伝子、肺がんの原因となる可能性が考えられる遺伝子、または、肺がんの原因となるかどうか現時点では不明な遺伝子です。この研究で調べるのは、肺がんの細胞に限定して起きている遺伝子変化であるため、通常の「親の体質が子に伝わる」遺伝子とは別のものです。よって、あなたやあなたの家族に対する不利益につながる可能性は低いと考えられます。

しかし、あなたがこのような遺伝子解析に関して不安に思う場合や、相談したいことがある場合に備えて、国立がん研究センターでは、遺伝外来を行っています。ここでは、担当者があなたの相談をお受けすることが可能です。ご希望がある場合には、担当医にその旨申し出てください。

産学連携全国がんゲノムスクリーニング事業(SCRUM-Japan)と、企業へのデータ提供について

SCRUM-Japan(Cancer Genome Screening Project for Individualized Medicine in Japan)は、この研究を行う組織である前述のLC-SCRUM-Japanと、大腸がんをはじめとして消化器がんの遺伝子検査を行う研究組織であるGI-SCREEN-Japanをまとめて、2015年2月に発足した新たな研究組織です。国立がん研究センターが、全国の医療機関、製薬企業と協力して、患者さんの個々のがんの遺伝子異常の特徴に合わせた有効な治療(個別化治療)を実現することを目指して設立されました。

SCRUM-Japanの主な目的は、①遺伝子解析の結果に基づいて、がん患者さんへ有効な治療薬を届けること、②多種類の遺伝子異常が同時に迅速に診断できる検査方法を開発し、実際の診療で利用可能にすることに二つです。

この研究では前述のようにオンコマイン・キャンサー・パネル(OCP)を使用し、約150種類の遺伝子検査を行います。SCRUM-Japanの中のLC-SCRUM-Japanで行う多種類の遺伝子を同時に検査する遺伝子検査(このような検査方法を「マルチプレックス遺伝子検査」と呼びます)の費用は、SCRUM-Japanへ参加企業が負担し、代わりに、遺伝子検査の結果と臨床情報を結びつけたデータを、個人が全く特定されない(個人情報保護された)形にして、参加企業へ提供します。企業は、新しい治療薬を開発していくために、これらの貴重なデータを役立てていきます。

5. 研究への参加について

この研究に参加するかどうかは、あなた自身の考えでお決めください。

この研究に参加しない場合でも、あなたはなんら不利益を受けませんし、担当医と気まづくなることを心配する必要もありません。また、研究の参加に同意した後でも、いつでも、またどんな理由でも研究への参加をとりやめることができます。その場合も、あなたはなんら不利益を受けません。ただし、既に公表された研究成果については、途中からあなたの情報だけを削除することが困難でありますので、同意撤回までに公表された研究結果については、そのままあなたの情報を利用させていただくことをご了承ください。同意撤回以降の新たな研究には、あなたの情報を使用することはありません。

これから、この臨床研究についての詳しい説明をお読みになり、また、担当医からの説明を受け、臨床研究の内容を理解し、参加を希望する場合は、同意書に署名をお願いします。

6. 予想される利益、危険性及び不利益

1) 予想される利益

現在、保険診療として行うことのできる肺がんの遺伝子検査は、EGFR 遺伝子変異と ALK 融合遺伝子の検査であり、RET 融合遺伝子や ROS1 融合遺伝子の有無を判定する遺伝子検査及び、その他複数の遺伝子を対象とした遺伝子検査は、研究目的以外の一般臨床では行われていません。もし、この研究へあなたが参加した場合には、このような一般臨床で行われていない遺伝子検査を無料で受けることができます。

検査の結果、遺伝子異常が検出され、その遺伝子異常を対象とした臨床試験が実施されていれば、あなたの希望により、担当医と相談のうえ試験への参加を検討することが可能になります。本研究に関する臨床試験の情報は、国立がん研究センター先端医療開発センターのホームページ(http://epoc.ncc.go.jp/clinicaltrial/scrum_trial.php)に掲載されますので参照してください。

本研究は、様々な遺伝子異常を有する肺がんの特徴を調べることに加えて、その肺がんの治療開発を推進することを目的としていますが、実際にこれらの新しい治療薬や治療法の臨床試験にあなたが登録するかどうかについて、本研究は一切関与しません。これらの臨床試験の詳細な情報については、担当医に確認し、実際の登録に関しては、担当医とよく相談したうえで、あなたご自身の判断で決めて下さい。また、各臨床試験には、臨床経過、全身状態や検査結果に基づいた厳密な登録基準がありますので、その基準を満たさない場合、あるいは臨床試験の登録が既に終了した場合には、例え遺伝子異常を認め、登録を希望したとしても、登録できない場合があることは、予めご了承ください。

なお、この研究におけるこれらの遺伝子解析の実施予定は、随時変更になるため、実際の遺伝子解析の実施状況については、担当医に御確認下さい。

2) 予想される不利益

気管支鏡や針生検により組織や細胞を取る場合には、余分に検体を取る可能性が生じるため、検査の時間が延長したり、喀血（肺、気管支から出血すること）、気胸（肺がパンクすること）などの合併症が起こる可能性があります。これらは、通常の診療でも起こりうることであり、発生した場合には、通常の診療と同じように担当医が適切に対処します。なお、余分に検体を採取する場合でも、採取する検体量は一般診療で採取する検体の量を大きく越えるわけではなく、組織や細胞を取る回数が数回増える程度です。極端に検査の回数が増えたり、検査時間が延長することはなく、あなたの身体に強い負担がかかることはありません。過去の手術などの際に既に組織や細胞を取って保存しており、その検体をこの臨床研究に利用する場合には、あなたに新たな負担がかかることはありません。

遺伝子検査については、その精度に限界があり、確実に結果が判明するわけではないため、遺伝子異常がないという結果が出て、本当はあなたの肺がんに遺伝子異常がある可能性も考えられます。また、遺伝子異常は、治療薬の効果を完璧に予測できる訳ではないこともあらかじめご理解ください。

また、遺伝子検査の結果に基づいてあなたが参加する可能性がある臨床試験は、新たな治療薬や治療法の有効性と安全性を調べるものであるため、臨床試験で行う治療によって必ず利益が得られるとは限らないこともあらかじめご理解ください。

7. 個人情報の保護

この臨床研究に参加すると、あなたの臨床情報が研究参加施設から登録されます。その際

に、株式会社アクセライズ・サイトという会社から臨床研究コーディネーター(CRC)という臨床研究を支援する専門の人が施設に派遣され、臨床情報の登録に関してサポートを行います。あなたから得られた全ての臨床情報および検体は、あなたの名前ではなく、個人を容易に特定できないようにつけられた番号(症例登録番号)を用いて管理されます。登録された臨床情報を含んだデータは、国立がん研究センター東病院 臨床研究支援部門 トランスレーショナルリサーチ推進部バイオバンク・トランスレーショナルリサーチ支援室で厳重に保管されます。保管期間は研究終了後10年間で、保管状況は定期的に専属の職員が確認します。この研究で得られた臨床情報および検体を、新しい研究のために第三者へ提供する必要が生じた場合も、データは個人を特定できない症例登録番号により管理され、第三者があなたの個人情報個人が特定できる形で使用することはありません。また、これらのデータを破棄する場合も、症例登録番号のまま廃棄されます。

各医療機関および、研究事務局では、これらの情報が外部に漏れないように、また、この研究の目的以外に使われないように、最大の努力をします。この臨床研究にご参加頂ける場合は、これらの個人情報の取り扱いについてご了承下さいませようお願いします。

この研究の進捗(登録)状況や、研究の中で得られた遺伝子検査の結果と臨床情報を結び付けたデータは、SCRUM-Japanへ参加する企業へ提供されます。この場合も個人が全く特定されない形にして、提供されるため、登録した患者さんの個人情報は完全に保護されます。

また、この研究が適切に行われているかどうかを第三者の立場で確認するために、担当者が、あなたのカルテやその他の診療記録などを拝見することがあります。このような場合でも、担当者には守秘義務があり、あなたの個人情報は守られます。またこの研究で得られたデータを、この研究以外の目的で使用することはありません。

もし、あなたから得られた臨床情報および検体の廃棄を希望される場合は、担当医までご連絡下さい。ご希望に添って、全ての臨床情報および検体を完全に廃棄します。

※本研究で利用される臨床情報は下記の通りです。

診療施設名、年齢、生年月日(任意)、性別、喫煙歴、同意取得日、提出検体の種類・採取日・採取方法・採取部位、肺がんの組織型、全身状態、臨床病期、病変の部位、治療経過、治療効果、予後など

検体の取り扱いについて

採取され匿名化された検体については、遺伝子検査を専門に行っている検査会社(株式会社エスアールエル 東京都新宿区西新宿2-1-1)に提出され、そこで検査が行われます。遺伝子検査の結果は3~5週間後に担当医に報告されると共に、研究事務局にも報告されます。なお、結果が報告されるのは、遺伝子解析の実施状況にもよりますが、これまでに肺がんにおいて治療薬の効果との関係が報告されている20種類の遺伝子の変異(RET 融合遺伝子、ALK 融合遺伝子・遺伝子変異、ROS1 融合遺伝子、FGFR1-4 の遺伝子変異・遺伝子増幅・融合遺伝子、MET 遺伝子変異・遺伝子増幅、AKT1 遺伝子変異、BRAF 遺伝子変異、ERBB2 遺伝子増幅・遺伝子変異、HRAS 遺伝子変異、KRAS 遺伝子変異、NRAS 遺伝子変異、PIK3CA 遺伝子変異、EGFR 遺伝子変異、NTRK1-3 融合遺伝子、NRG1 融合遺伝子)です。研究事務局では、個人名が特定できないように登録番号が付けられた後、臨床情報及び、全ての遺伝子解析の結果がデータとして保管されます。つまり、得られた遺伝子解析の情報は、個人を認識する情報とは完全に切り離されて保管されるため、受診した医療機関と国立がん研究センター東病院の研究事務局以外では、遺伝子情報から個人名を特定できなくなります。また、この研究を通して得られた臨床情報については、プライバシーを保護するため、秘密が守られます。あなたの名

前や個人を識別する情報は、この研究の結果を発表する際に使用されることはありません。

残った検体の保存と、将来の研究への利用について

今回、皆様より提供して頂いた検体は非常に貴重なものです。更に、今回測定する RET 融合遺伝子、ROS1 融合遺伝子や、その他の遺伝子変化の診断方法を今後確立していくうえで、再現性を確認するためにも非常に重要な検体になります。そこで、皆様のご理解を頂けるなら、今回の研究で利用した後の残りの検体については、国立がん研究センター東病院呼吸器内科と、国立がん研究センター東病院 臨床研究支援部門 トランスレーショナルリサーチ推進部バイオバンク・トランスレーショナルリサーチ支援室の厳重な管理の元で研究終了後から10年間は保存して、今後、がんに関連する新たな研究が計画された場合に役立てていきたいと考えていますので、ぜひご協力をお願いします。もちろん、その際にも、この研究と同様に参加者のプライバシーと利益は厳重に守られます。なお、今後の新たな研究へ使用する際や、研究終了後10年を超えて保管する場合には、研究代表者、事務局またそれらから任命された責任ある立場の研究者が、改めて研究計画書を作成し、その都度、国立がん研究センター（場合によっては担当施設）の倫理審査委員会で研究の妥当性やプライバシーの保護の方法について審査を受ける必要があります。保存している検体を勝手に研究に利用することはできませんので、ご安心ください。もし、この研究のみの参加を希望される場合は、検体の残りは、この研究が終了した後直ちに廃棄いたします。

今後の他の研究への利用に関して同意して頂ける場合は、別紙同意書（研究終了後の試料等の取り扱いについて）にも併せてご署名をお願いします。

8. 研究成果の公表

この臨床研究から得られた結果は、学会や医学雑誌などで公表します。発表に際し、あなたの名前など個人を特定できる情報を使用することはありません。

9. 研究結果の開示

本研究は集団としての解析情報であり、本研究の目的から被験者本人へは原則として開示しません。

遺伝子解析については、希望があれば開示します。

10. 研究から生じる知的財産権の帰属について

皆様に提供していただいた検体についての財産権、また本研究の結果として生じる可能性のある知的財産権及び、それに基づく経済的利益が将来的に発生する可能性があります。それらの権利は国立がん研究センターに帰属し、皆様はこの権利を放棄することになります。

11. 治療にかかる費用負担

この臨床研究における医療行為は通常保険診療内で行われます。そのためこの研究に参加した場合、あなたの病気に対して行われる検査（血液検査、一般生化学的検査を含む）、副作用や合併症に対して行われる治療については通常診療として行なわれ、健康保険に従った自己負担によって支払われます。ただし、遺伝子検査の費用については、この研究に関わる公的研究費及び、研究へ参加する企業が負担するため、遺伝子検査の費用があなたの経済的負担となることはありません。また、この研究への参加に伴い、謝礼や交通費などをお支払いすることはありません。

1 2. 利益相反について

1) 「利益相反」の説明

臨床研究における利益相反とは、研究者が企業等から経済的な利益（謝金、研究費、株式等）の提供を受け、その利益の存在により臨床研究の結果に影響を及ぼす可能性がある状況のことをいいます。

2) 利益相反の有無および内容説明に関する記載

この臨床研究は、この研究にかかわる公的研究費を主な資金源として実施しますが、遺伝子検査のための費用は公的研究費の他に、共同研究者として本研究へ参加した企業が負担します。特に SCRUM-Japan へ参加した企業はこの研究の中で行う多種類の遺伝子を同時に検査する遺伝子検査（マルチプレックス遺伝子診断）の費用を負担することになります。これらの企業とは利益相反が発生しますので、その意向により研究結果が左右されないように、研究事務局は細心の注意を払います。

3) 利益相反の管理方法に関する記載

この臨床研究における利益相反の管理は、参加施設それぞれが自施設の研究者に行っています。国立がん研究センターにおける利益相反の管理は、国立がん研究センター利益相反委員会が行っていますので、詳細をお知りになりたい場合は、担当医までお問い合わせください。

1 3. 他の治療方法について

この臨床研究に参加しなくても、肺がんに対する診療は通常通り受けられます。また、EGFR 遺伝子変異と ALK 融合遺伝子の検査は通常の保険診療として行うことが可能であり、陽性の場合には、それぞれの遺伝子異常に対して保険診療として承認された治療薬の投与を受けることが出来ます。

1 4. 健康被害がみられた場合

この臨床研究に参加中、または、終了後に、この研究に参加したことが原因となって予想しなかった重い副作用等の健康被害が発生した場合は、通常の診療と同様に適切に対処いたします。その際の医療費は、あなたが加入している健康保険で、あなた自身にご負担頂くこととなります。この臨床研究に参加することにより補償金が支払われることはありません。

1 5. 臨床研究に関する問い合わせおよび連絡先

この臨床研究に関することをご質問がありましたら、いつでも遠慮なく研究担当医師にお尋ね下さい。

担当医師： 所属 産業医科大学病院 呼吸器・胸部外科(第2外科)

氏名 _____

印

連絡先： 電話 093-603-1611(内 2467) FAX 093-692-4004

研究実施責任者：産業医科大学医学部第2外科学講座 教授 田中文啓 印